

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 24 日現在

機関番号：21201

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20710192

研究課題名 (和文) インドネシアにおけるイスラーム主義急進派のイデオロギーと実践

研究課題名 (英文) Ideology and Practices of Radical Islamists in Indonesia

研究代表者

見市 建 (MIICHI KEN)

総合政策学部・総合政策学部・准教授

研究者番号：10457749

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：インドネシア、イスラーム、イデオロギー、政治運動

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、インドネシアにおけるイスラーム主義急進派がなぜ暴力的な行動を採るのか、その理由を明らかにすることにある。より具体的には、第一に急進派の何が急進的であるのか、その運動の目的とイデオロギー的、組織的背景を明らかにする。急進的なイスラーム運動はごく少数派であるが、社会的政治的なインパクトは非常に大きく、またアメリカにおける 9 1 1 同時多発テロ事件に代表されるように「グローバルな」広がりを持つ運動である。したがって、第二にインドネシアのイスラーム政治運動史および世界的なイスラーム主義潮流における位置づけを明確にする。第三に運動に直接関わりのない「一般の」市民やメディアにおける急進派についての知覚、反対に現代社会に対する急進派の知覚と暴力の関係について明らかにする。急進派はあくまで当該社会に埋め込まれた存在である。急進派が台頭する社会的政治的背景の分析は欠かすことが出来ず、また急進的な運動は社会から一定の支持を受けたり反対に孤立する場合がある。

本研究は急進派ただそのものに注目するのではなく、思想・歴史・政治および社会・文化変容の文脈に位置づけることによって、現代インドネシアあるいはより広くムスリムが多数派を占める社会を照射しようというものである。

2. 研究の進捗状況

インドネシアのイスラーム主義武装闘争派であるジャマア・イスラミヤ (J I) および 2008 年結成の新組織ジャマア・アンソール・タウヒード (J A T)、イデオロギー的な急進派である解放党、穏健派の合法政

党である福祉正義党を中心とした継続的なインタビュー調査および資料収集を進めた。同時にこれまでの研究成果のアウトプットとして国際会議での発表を行い、東南アジアおよび欧米の研究者からのフィードバックを得た。

武装闘争派については、インタビュー調査の成果や未発表の著作など独自に入手した資料も利用しつつ、内外の武装闘争イデオロギーの歴史的系譜を明らかにするとともに、ネットワーク論を用いた分析、映像による宣教活動についての分析を行った。福祉正義党についても、映像や出版物による宣教活動を中心に分析を行った。いずれも単に運動や活動の内容を検討するだけでなく、社会におけるその位置づけを明らかにし、その市場戦略について詳細に検討した。以上の分析は、インドネシアのイスラーム運動についての既存の分析枠組みに修正を迫り、新たな鳥瞰図の提示に至るものであると確信している。もっとも新たな分析枠組みを提示するためには政治運動の分析のみでは不十分であり、2010 年に J I C A 研究所が行ったインドネシア、マレーシア、フィリピン、タイにおける世論調査の成果も利用し、グローバル化時代におけるムスリム社会の変容を統計的な裏付けたうえで、作業を行っているところである。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している

現地調査を通じて関係者へのインタビューや資料収集が進んでいる。社会的位置づけや比較の視点についても、多方向からのアプローチを試みている。

4. 今後の研究の推進方策

研究成果のアウトプットと今後の研究に向けた足場作りが主たる活動となる。研究成果のアウトプットについては、日本語による単著と英語による編著の単行本の出版計画がある。前者は出版社との合意ができており、これまでに出版されたあるいは出版予定の諸論文が中心となる。具体的には、消費主義が蔓延する現代インドネシア社会においてイスラーム諸運動がいかに表象され、「商品化」されているか、を他国や歴史的な比較の視座を踏まえて明らかにする。本研究が中心的に扱うイスラーム主義急進派も自らのイデオロギーを書籍や映像商品として市場に売り込もうとしており、それらを社会的に位置づける作業が必要になる。後者の英語による編著は他の研究プロジェクトの成果物であるが、本研究にも深い関わりがある。

イスラーム主義急進派は相次ぐ関係者の逮捕、民主化の定着とグローバルな武装闘争に批判的な近年のインドネシア社会の動向、他方で相次ぐ宗教的マイノリティへの攻撃、といった事柄によって岐路に立たされている。非常に早いペースで動いている動向調査も継続する。とりわけ昨年度までに実施できなかった、ロンボク島など周辺地域におけるローカルな政治（とりわけ2014年の総選挙へ向けた政治動向を踏まえ）とイスラーム主義運動との関係や動態の解明を通して、本研究の足場をより強固なものにしたい。

次のステップは国際比較である。本研究で明らかにしようとしているナショナルあるいはローカルな政治社会構造とイスラーム諸運動の関係や諸運動の構成は、当該地域だけを見ては「近視眼」的なアプローチになってしまう。他国や他地域の研究者とも意見交換をしながら、今後の国際的な比較研究に向けて、具体的な戦略を練っていく。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

① 見市建 「グローバル化とムスリム社会の食文化」『明日の食品産業』2010年4月号、12-18頁 (査読無し)。

② 見市建 「消費されるイスラーム—インドネシアにおけるイスラームとメディア」、渡邊直樹責任編集『宗教と現代がわかる本 2009』平凡社、2009年、108-111頁 (査読無し)。

[学会発表] (計 9 件)

① Ken Miichi, “Religious Symbols and Political Power in Jakarta,” Haku International Symposium, 8-9 January 2011, Makassar: Hasanuddin University.

② Ken Miichi, “Political Adaptation of an Islamist Party in Indonesia: The ‘Market Strategy’ of the Prosperous Justice Party (PKS),” IAS Third International Conference, New Horizons in Islamic Area Studies, 17-19 December 2010, Kyoto International Conference Center.

③ Ken Miichi, “Democratization and ‘Failure’ of Islamic Parties in Indonesia,” Workshop on Islam and Development in Southeast Asia: Southeast Asian Muslim Responses to Globalization, July 26-27, 2010, Tokyo: JICA Research Institute.

④ Ken Miichi, “Salafism Traits among Militant Islamists in Indonesia,” The International Conference on Islamic Area Studies, 23 November 2008, Nikko Hotel Kuala Lumpur.

⑤ 見市建 「インドネシアの民主化と政治的安定」日本政治学会、2008年10月12日、関西学院大学。

[図書] (計 6 件)

① 見市建 「出版業にみる福祉正義党の『市場戦略』」床呂郁哉・福島康博編『東南アジアのイスラーム』、133-143頁。

② 見市建 「イスラーム化の進行とイスラーム系政党弱体化の矛盾」本名純・川村晃一編『2009年インドネシアの選挙—ユドヨノ再選の背景と第2期政権の展望—』、2010年、109-129頁。

③ 桃木至郎、見市建他編『新版東南アジアを知る事典』、平凡社、2008年、732頁。

④ 見市建 『テロリスト』の来歴—インドネシアにおける武装闘争派の思想と行動』森孝一編『ユダヤ教・キリスト教・イスラームは共存できるか』明石書店、2008年、82-103頁。

[その他]

中東民主化データベース

<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/~dbmedm06/meld13n/database/indonesia.html>